

ー1月中旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査は 12 月 13 日, 14 日に実施
天候予報は, 仙台管区气象台 12 月 14 日発表を参照

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果, 発生量は平年並であった。
- (2) 向こう1か月の日照時間はほぼ平年並の予報となっている。

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	やや少

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果, 一部で寄生株率が高いほ場があったが, 発生地点率は平年より低く, 発生量は平年よりやや少なかった。

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果, 発生量は平年並であった。

2 防除のポイント

(1)うどんこ病

- (イ) 多発すると防除が困難になるので, 発生初期に防除を実施してください。
- (ロ) 発病果は伝染源になるので, 見つけ次第, 除去し適切に処分してください。

(2)灰色かび病

- (イ) ハウス内の通風をよくして, 多湿にしないように注意してください。
- (ロ) 発病葉や発病果は伝染源になるので, 見つけ次第, 除去し適切に処分してください。

(3)炭疽病・萎黄病

- (イ) 発病株は見つけ次第, 速やかに抜き取り, ビニール袋に詰め密封処理する等, 適切に処分してください。

(4)ハダニ類

- (イ) 多発すると防除が困難になるので, ほ場をよく見回り, 発生初期に防除を実施してくださ

い。

- (ロ) 発生初期は、地面に接した下葉に多く寄生しているので、下葉の除去を行ってから、薬剤散布を行うと効果が高くなります。
- (ハ) 開花始期を目安に天敵(ミヤコカブリダニ、チリカブリダニ)を放飼する場合は、天敵に影響の少ない薬剤によりハダニ類の密度を減らしてから放飼してください。
天敵を利用したハダニ類の防除体系については、「普及に移す技術 第82号普及技術9」
<http://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/69958.pdf> を参照してください。
- (ニ) 有効成分によっては、防除効果の発現まで時間がかかる場合もあります。薬剤の性質(速効性、遅効性)を理解した上で防除効果を確認してください。

(5)コナジラミ類

- (イ) 多発すると排泄物(甘露)によるすす病を発生させるので、発生初期に薬剤防除を行ってください。

農薬使用上の注意

- 薬剤によっては、訪花昆虫(ミツバチ等)に対して影響がでる場合があります。影響する期間は薬剤によって異なるので、散布計画を立てる時に「使用上の注意」等を確認し、残効等の特性を理解してから使用してください。
- 「いちご」の登録薬剤の他に、「野菜類」の登録薬剤も使用可能ですが、事前に薬害の有無を確認してから使用してください。
- 病害虫の薬剤抵抗性の発達を防止するため、同一作用機構分類に属する剤の連続使用や多数回散布にならないよう注意してください。(下記※2参照)
- いちごの農薬使用回数については、親株のランナーから切り離れた時点から収穫終了までをカウントします。使用回数に注意してください。
- ラノーテープは、蚕に長期間強い毒性があります。使用済みテープは絶対に焼却せず、設置に使用した手袋及び空き袋、巻き芯なども含めて全量を製品添付の回収袋に集め、販売店に返却してください。

※1 薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

[農薬登録情報 http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)

※2 農薬の作用機構分類表については、農薬工業会のホームページを参照ください。(殺虫剤:IRAC, 殺菌剤:FRAC) [農薬の作用機構分類 http://www.jcpa.or.jp/lab0/mechanism.html](http://www.jcpa.or.jp/lab0/mechanism.html)

※3 「蚕注意マーク」の表示がある薬剤は、事前に周辺の養蚕の状況等に注意を払い、残効性等の特性を考慮してから使用(時期)を決めてください。

※4 農薬を散布する際には周辺作物の収穫時期に注意し、農薬が飛散しないよう対策をとるとともに、散布農薬を必ず記帳してください。

※5 農薬の空容器の野焼き(野外の焼却)は禁止されています。空容器の処理に当たっては、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適正に行ってください。